

令和7年度 中野区立中野中学校 学校経営方針
FOR 2050 (2050年に向けて)

校長 竹之内 勝

【目指す生徒像】

- 幅広い教養を身に付け、**生涯学び**続けようとする生徒（知）
- **人権尊重**の精神を理解し、社会の発展に寄与しようとする生徒（徳）
- 自他の生命を尊重し、**健康な生活**を送ろうとする生徒（体）

課題1「賢く」

主體的・対話的で深い学びの実現、基礎・基本の徹底、家庭学習の習慣化

教育目標

英知の風かおり（知）

友愛の情ふかく（徳）

精励の志つねに（体）

校訓

自律

共生

創造

【経営スローガン】FOR 2050 ～考えを交流し、深め合う学校を目指して～

課題2「優しく」

自己有用感に裏付けられた**自己肯定感**の醸成、挨拶習慣、いじめ・**不登校等対応**、正しい判断力（セルフ・ダーシップ）・言葉遣いの育成

課題3「逞しく」

健康な生活、安全・安心の徹底、**運動の日常化**、体力・運動能力の向上

【目指す学校像】

- ◇ 生徒一人ひとりが、誰一人取り残されず、排除・放置されず、様々な学校生活の場面で**感動**を味わうことができる学校
- ◇ 生きる目標を明確にもち、それに向かって一生懸命**努力**する生徒が育つ学校
- ◇ 「**中野区子どもの権利に関する条例**」の理念の下、生徒の可能性を伸ばすために、教職員が一つになり、**組織**として機能する学校
- ◇ 教職員一人ひとりの心身における**健康**保持が実現している学校
- ◇ 生徒、保護者、地域の方々の笑顔によって教職員も笑顔になり、教職員一人ひとりが、**誇り**と**やりがい**をもって職務に従事できる学校

INTELLIGENCE

【成果指標1】

- (1) 「家庭や自習室で学習している」 ㊦80%以上
- 「読書時間10分以上/日」 ㊦80%以上
- 「自分の学力は向上している」 ㊦80%以上
- 「学校図書館貸出冊数/人」 ㊦10冊以上
- (2) 「**保幼小中連携教育の説明**」 ㊦80%以上
- (3) 国・都学力調査 都平均以上
- 区学力調査 目標値達成生徒70%以上

具体的な取組

- ア **主體的**、対話的で深い学びの実現に向け、「個→グループ→全体→個」の授業展開を実施する。
- イ 一人1台端末を活用したAIドリルなど個に応じた学習を積極的に取り入れ、個々の学習状況を把握し、個別に指導・助言することで、「**個別最適な学び**」の充実を図る。また、「**協働的な学び**」の更なる展開のために、小集団やジグソー法での話し合い活動、プレゼンテーション機会の充実、また、同時編集ツールを用いて他者の考えが可視化できる授業展開について工夫する。
- ウ 「中野区学力にかかわる調査」や「全国学力・学習状況調査」の結果等から課題を抽出し、**授業改善**に生かすことで、基礎・基本の確実な定着を目指す。
- エ 「**指導と評価の一体化**」について、年度当初に生徒や保護者に明確に説明するとともに、指導教諭や主任教諭を生かした校内研修や研究授業、または公開授業を実施し、適正な評価・評定を行う。
- オ **知識・技能を活用**して思考力・判断力・表現力等が育成できるよう、観察や実験、レポートの作成、論述等、自ら考え表現する活動を工夫する。
- カ 数学や英語は少人数指導や習熟度別指導を行い、生徒の発達段階に応じて工夫した授業を展開し、**学力の定着**を図るとともに、発展的な内容の充実を図る。
- キ 学習支援員を活用した効果的なティームティーチングや、放課後自習教室、夏季補充教室を実施し、学力が定着していない生徒への**学習支援**に努める。
- ク 電子黒板や一人1台端末、中野区の学習プラットフォームである「Google Workspace for Education」を授業に生かしながら、AIドリルなど、**個別最適化につながる学習の手だて**を積極的に活用する。
- ケ 自分らしくチャレンジする機会（キャリア教育、**体験活動**の充実等）を創出する。
- コ 自分らしく学べる教育（学びの**自己決定**、学習の個性化等）を推進する。
- サ **生涯**にわたり自分らしく学べる教育を推進する。
- シ **読書活動**を推進し、言語活動を充実させる。

UNIVERSAL DESIGN

【成果指標2】

- (1) 「自分にはよいところがある」 ㊦80%以上
- 「人や社会の役に立つ人間だと思う」 ㊦70%以上
- 「目標をもって生活を送っている」 ㊦75%以上
- 「ボランティア活動に参加している」 ㊦50%以上
- (2) 「**特別支援教育の説明を行っている**」 ㊦80%以上
- 「**開かれた学校づくりに努めている**」 ㊦80%以上

具体的な取組

- ア 教育活動全体を通じて**人権感覚の醸成**を目指し、人権週間を設定し、美術科の人権ポスターや人権作文などの取組を推進する。
- イ 教育活動全体を通じて道徳教育を教育課程に位置付け、自他の生命及び他者を尊重する心を育むとともに、物事を多面的・多角的に考え、礼儀正しさ、規範意識、思いやり、感謝の気持ちなどの公共の精神及び**自己肯定感**を大切にする心を育成する。
- ウ 道徳教育推進教師を中心に、道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画を作成し、「**考え、議論する道徳**」の指導を系統的に進める。
- エ 道徳授業地区公開講座を通して、指導方法の共有のみならず、家庭や地域とも連携して、**道徳実践力の向上**を図る。
- オ 道徳や総合的な学習の時間における学習過程や記録、発表などを基にして、生徒の心の変容を把握し、生徒自身が**自己の成長を実感できる評価**を適切に行う。
- カ **自ら考え、学び、行動する人材**を育成する。
- キ 国際的視野（**多文化共生**、外国語によるコミュニケーション能力の向上等）をもつための教育を推進する。
- ク **一人ひとりを大切にする教育**を推進する。
- ケ 幼児期からの連続した教育（**保幼小中連携教育**）を推進する。
- コ **家庭・地域・学校の連携**による教育を推進する。
- サ **コミュニティ・スクール**を運営する。
- シ **開発学校**として、チャレンジクラス「N組」の効果的な教育課程を構築する。
- ス **個に応じた指導**の充実を図る。
- セ 共生社会の実現に必要な資質である「**ボランティアマインド**」を育成する。
- ソ **子どもの意見を反映**させた教育活動を展開する。
- タ 支援が必要な生徒に対して、**個別指導計画**や**学校生活支援シート**等を作成し、個に応じた適切な指導や評価を組織的・計画的に行うとともに、その内容等について、保護者との共有を図る。

- 「**学校2020レガシー**」として、「**ボランティアマインド**」に重点をおき、自己有用感に裏付けられた自己肯定感を醸成する。

ACTIVE

【成果指標3】

- (1) 「早寝・早起き・朝ごはん」 ㊦75%以上
- 「**保体科の授業に主体的である**」 ㊦50%以上
- 「自分の体力は向上している」 ㊦80%以上
- (2) 「**健康・体力づくりを進めている**」 ㊦80%以上
- (3) 校内・校外事故の年間件数前年比 5%減

具体的な取組

- ア **学校教育全体で取り組む生徒の体力向上と健康教育**に関する教育活動を更に推進する。
- イ 生涯にわたって健康な体を維持するため、保護者や地域関係者との連携を図り、基本的生活習慣や**健康三原則（栄養・運動・休養）の確立**に努める。
- ウ 一人一人の子どもの**豊かなスポーツライフ**を育むために体育健康プログラムを作成し、それを基盤に系統的・計画的な指導を行う。また、体力向上月間を設定し、生徒の自主的・主体的な実践を促し、体力や運動能力向上の大切さを理解させる。
- エ 保健便りや給食便り、生活リズム調査、健康委員会の定期活動など、主任養護教諭や栄養士が中心となって、**食育**の充実や**生活習慣**について考える機会を設定する。
- オ 東京都教育委員会が策定したTAP（Tokyo Active Plan）を参考に、さらに個別最適な学習を進めるための保健体育科の授業改善や、**スポーツライフの推進**に向けた意識醸成を推進する。
- カ 生徒の**豊かなスポーツ・文化芸術活動**を実現するため、地域人材の活用や特定の種目における合同部活動などを推進するために、校内整備を進める。
- キ 部活動指導員や外部指導員、地域の専門性をもった指導者の講演などを通して、その**スポーツや芸術の特性、心地よさ**を学ぶ機会を広げる。
- ク スポーツ志向等を高めるために、中野区の部活動地域移行の方向性として、中野区**連合陸上競技大会**や中野区**連合文化発表会**など、学校間を越えた生徒の関わりや活動を推進する。

- カリキュラム連携を視点にした**保幼小中連携教育**に取り組むとともに、学校の更なる**ユニバーサルデザイン化**に向けて取り組む。